五頭温泉郷・村杉温泉　将来発展化構想

大國道夫・都市・建築総合研究所㈱

はじめに

２０１３年９月に開催された「健康と温泉フォーラム２０１３阿賀野市―ラジウム・ラドン温泉広域連携による地域活性化」での体験をもとにして、五頭温泉郷　村杉温泉の将来発展構想について提案いたします。

今回は村杉温泉が会場であったことと、東京大学　下村彰男先生、長生館荒木専務とご一緒に村杉温泉のまちと周辺の森を散策しながらご意見を伺ったことをもとにまとめてみました。したがって五頭温泉郷のうち村杉温泉が中心となっております。五頭温泉郷はラジウム・ラドンを効果的に取り入れ、健康増進型保養温泉となっています。新潟県調査による顧客満足度においても高い評価を得ています。　来訪する客は新潟県内を始め、関東近県を中心に広く分布し、「また訪れたい」とのリピーター頻度も高い温泉と知られています。温泉郷内にある旅館は庭園を持ち、敷地内に多様な機能を持たせ、完結した温泉旅館機能を満たしています。しかし、現状の入込み客数や来訪者の傾向を見ると、温泉郷の持つ様々な資源からみた場合、より高い目標への挑戦が可能性を持っていると考えられます。意見交換と現地視察の様々なご意見を取り入れた提案といたしました。

健康と温泉フォーラム２０１３参加集合写真

１、五頭温泉郷が持つ特徴

五頭温泉郷が持つ特徴を他の温泉街や温泉卿との比較から整理すると次のような特徴が挙げられます。

１）顧客満足度が高い

体験型イベント、サイクリング・コース、登山コース、健康増進プログラムなどが企画、実践されてきている。同時に各宿ではユーザ層別にきめ細やかな「おもてなし」の工夫がされ、ネットの「口コミ」サイトや宿泊者の声にもその反映がみられ、それらの集約として顧客満足度での高い評価を得ている。

２）健康増進プロジェクトの推進

五頭温泉郷は、阿賀野市が掲げる「健康増進プロジェクト」の中軸となる「五頭温泉郷」として新潟県民そして県外からの来訪者に対しても発信力のもった「健康増進型保養温泉地」としてさらなる発展を目指している。

３）広い敷地と洗練された宿

ひとつひとつの温泉宿は広い敷地を持ち、その中に様々な機能をもった施設を備え、訪問客にとっては、その旅館内ですべて満たされることができるようになっている。

４）「おもてなし」、「あじ」、「みりょく（泉質、湯殿、景観）」もすでに確固とした実力を備えている旅館が多い。

５）温泉街、温泉郷としてなりたつための必須の資源である泉質、湯量、食材供給、優れた従業員の確保と育成、継承などが確保されていると思われる。

２、五頭温泉郷の地理的な特徴と周辺地域の関連性から見た要素分析

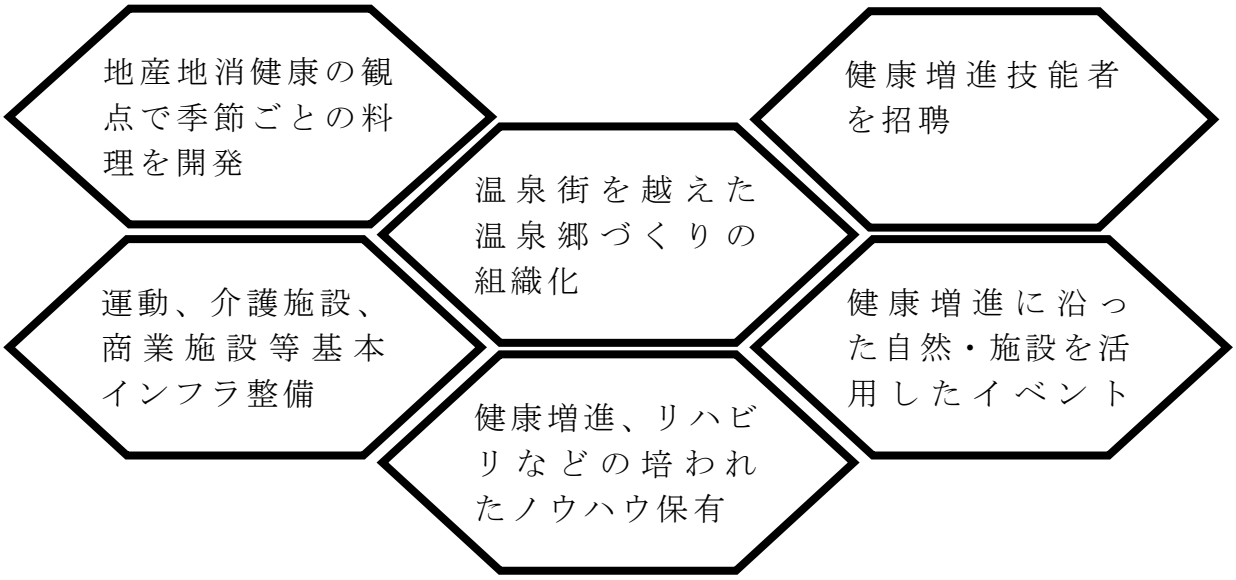
新潟駅から２５キロ、新発田駅から１６キロ、阿賀野市中心部から７キロと周辺拠点都市から至近の位置にある。このため新幹線からのアクセスが良く、新潟駅からは４９号線若松街道で阿賀野市経由４７０号線で結ばれている。新発田駅からは２９０号線で結ばれている。

東側には五頭連峰が広がっている。このため地域の海産物、農産物に恵まれ、山並みと農村の自然環境にも恵まれている。

３、五頭温泉郷のコアー・コンピタンス構築の課題

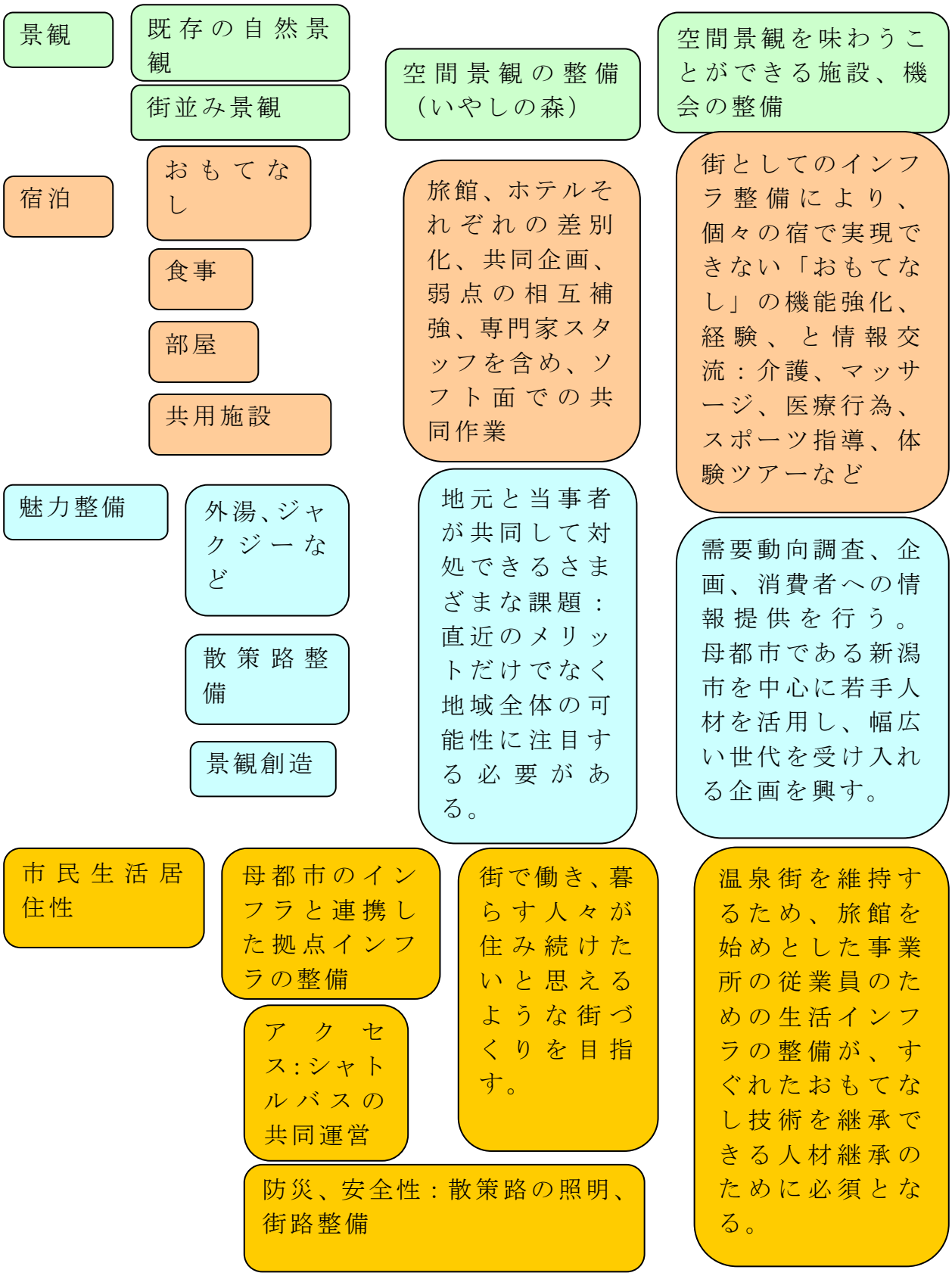
環境庁の報告書「温泉の保護と利用に関する課題について」でも指摘されているように､目的の多様化はあるにしても､依然として温泉そのもの、温泉らしさ、情緒、自然環境への志向は高い。このことからも、本来その温泉地の文化・歴史、自然環境への造詣の深さとそれを生かした取り組みが求められます。

五頭温泉郷では様々なイベントなどに取り組まれているが、一貫したストーリーが必要となります。そのためコンセプトを「自然と歴史に育まれた健康増進プログラム」として設定すべきではないでしょうか。その実現のために地域固有の温泉文化を育み情報発信する必要があると考えられます。



五頭温泉郷のコアー・コンピタンス

４、活性化のための要素分析と関連性



活性化要素関連分析

５、五頭温泉郷　将来発展化構想のための提言

１）本多静六先生の構想の実現

本多静六博士は大正１０年に村杉温泉を訪れ、ラジウム温泉と雄大な自然環境を活用した壮大なる計画【村杉ラヂウム温泉風景利用策】を提案し、今に残されています。この構想を実現することによりラジウム温泉の効能の素晴らしさは勿論のこと、森林浴の効能や登山道、遊歩道の楽しみなどを広く堪能していただく。

２）五頭山を中心とした温泉地文化の発信

温泉文化を世界へ向けて発信する。

自然と融合したライフスタイルの創造により、社会情勢に対応した役割を果たすことが出来る。

信仰、食文化　薬草園、宿、自然とのかかわりと生活、参道の由来などをわかりやすく表現する。

３）集落構造の明確化とエリアの明確化

街路の奥に固まって存在する宿泊施設の魅力を引き出す。

安田の瓦､街並再生､廃屋の活用などにより一層の魅力を引き出す。

４）杉林などの植生の魅力発掘

杉、松、竹林、下草など温泉地における里山の風景を体験する。

５）水系の魅力発掘

湧き水、その流れ、安野川、飲料水、滝の利用などにより水の持つすがすがしさを体感する。

６）全体シナリオが必要

様々なイベントを体系付けて特徴を出すことが必要。

７）ブランド力アップ

広域の顧客を対象としたブランドづくりへとつなげる。

信仰と食事、医療と温泉をテーマとした五頭温泉郷の地元料理の開発と紹介。

８）ホームページの作成と情報発信

ラジウムラドン広域連携のホームページを作成し情報発信する。

広域連携はぜひとも必要である。

健康志向の試みを研究機関と連携して地域連携で実践する。

阿賀野スタイル、北杜スタイル、三朝スタイル、関金スタイルなど地域ごとの温泉文化を発信する。

地域社会と一緒に温泉地活性化のための広域的な運動へと発展させ、温泉地活性化のためのムーブメントを作る。

自然との親和性

林の育成

寺社仏閣による歴史の確認

須賀神社

まちなかの中心性創出

中心部に宿、共同湯が集まっている

まちなかの通りの明確化

風情をかもし出す通りとする

まちなか拠点の魅力化

廃業宿　再生、活用

五頭山を中心とする

五頭山方向を望む